

弥生文化の成立 [時期] 紀元前(B.C.) 4 世紀頃～紀元後 3 世紀頃

1. 特徴

① 1 水稻農耕 の開始

② 金属器 (2 青銅器 ・ 鉄器) の使用

③ 弥生土器の使用 [P. 16①②]

2. 稲作(水稻耕作)の開始

Q 1. 最近の研究では稲作は縄文末期から始まっていたとされる。それを物語る福岡県と佐賀県の遺跡は?

〈福岡〉 板付遺跡 〈佐賀〉 菜畑遺跡

Q 2. 弥生時代中期までには本州北端まで稲作が伝わったことを示す青森県の遺跡は? [図表P. 35②]

〈前期〉 砂沢遺跡 〈中期〉 垂柳遺跡

Q 3. 日本の中で弥生文化(稲作)が伝わらなかったところがある。それはどこか? また、そこでは弥生文化の代わりに何とよばれる文化がいつなまれたか? [P. 15②; 図表P. 35②]

A 3. (1) [地域] 北海道 = 続縄文 文化
(のち「擦文文化」「オホーツク文化」)

A 3. (2) [地域] 南西諸島 = 貝塚 文化

☆静岡県・3 登呂 遺跡…戦後初めての科学的発掘調査。集落と水田址。[図表P. 35②]

〈農耕技術〉 [P. 18①]

(初期農耕) 植え方 湿田 に 4 田植 または 直播 (そのため 田下駄 が必須)。

稲刈りの仕方 5 石包丁 による 6 穂首刈り。 [図表P. 36②]

木製農具 [図表P. 36②]。

(中・後期農耕) 植え方 乾田 を灌漑し、 4 田植。(初期から実施?)

稲刈りの仕方 鉄鎌 による 根刈り。 高床倉庫 に貯蔵。

鉄製の刃先 を持つ木製農具 [図表P. 36②]。

3. 道具 [図表P. 36①、②]

① 弥生土器…縄文土器より 高温 で焼成。薄手。色は 7 赤褐色。器形は様々だが 貯蔵用 の

8 壺、煮炊き用の 9 甕、盛りつけ用の 10 高坏 が「基本3点セット」。他に蒸し器としての 籠 も製作(水を入れた甕の上に乗せて使う)。

② 金属器 (使いみちに注意!) [P. 17～18、P. 19]

〈鉄器〉 実用的な工具や農具など 〈青銅器〉 共同の祭に用いられる祭器(祭祀用)

◇ 「水稻農耕」は「水稻耕作」や「稲作」の表現でも可。「米作り」も同じこと。農作業をともなって米を作っていることが表現できていればよいです。

◇ 世界史的には一般に石器→青銅器→鉄器とすすむ [教科書 P. 9⑤] とされますが (異説もあるようです)、日本は青銅器と鉄器が同時に入ってきたため実用と祭祀用に使い分けがされたと考えられます。理由は、鉄のほうが丈夫だからといわれます。

ところで青銅とは何色なのでしょう。「青(または青緑)じゃないの?」と思わなかった人はたいしたものです。青銅は年月がたち、酸化されると青または青緑となります。私たちは写真でこの状態を見ているのです。青銅は基本的に銅と錫(スズ)の合金で、錫の量が少ないと赤っぽく、少し増やすと黄色っぽく、もっと増やすと白っぽく、言い換えれば金や銀のように輝いたようです。つまり鉄よりも圧倒的に美しかった、と考えられます。製造当時の青銅器はきっと祭祀にふさわしかったことでしょう。

◇ 北海道では江戸時代までアイヌ民族による狩猟採集経済が続きます。北海道で米の生産が始まるのは明治に入ってからでした。沖縄では奈良時代頃から米作りが始まったようです。

◇ 湿田と乾田については教科書 P. 18①でその違いを確認しましょう。湿田では足が沈まないように田下駄を使用します。乾田の登場で田の生産性は上がったと考えられますが、日本の田の乾田化は明治頃まで続く事業となったようです。

◇ 弥生時代の初めの頃は種籾を じかに播 いていた (直播) と皆さんの保護者世代は習っているはずですが、その後の研究で弥生初期から田植えが行われていたことがわかってきました。

◇ 縄文土器に比べて弥生土器の色が明るく、薄手で堅いのは縄文土器と比べて焼成温度が上がったからと考えられます。たき火に投げ込むように焼いた縄文土器とどのように焼き方を 変えた のでしょうか。ちなみに現在の陶磁器を焼くような窯が登場するのは次の古墳時代になります。